

# 歌舞伎の歴史

## 1 歌舞伎の発祥

江戸初期の慶長八（一六〇三）年、京都に、出雲大社の巫女といわれる阿国が現れ、念仏踊りを踊って評判となり、出雲の阿国の名前が広まりました。やがて阿国は、派手な男装をして遊女のところへ通う「かぶき踊り」を始めました。これが「阿国かぶき」です。これが歌舞伎の誕生です。

## 2 女（遊女）歌舞伎、若衆歌舞伎から野郎歌舞伎へ

阿国かぶきは遊女たちに広がり、女（遊女）歌舞伎は人気を集めました。が、風紀上のトラブルから禁止され、代わって美少年たちの若衆歌舞伎が脚光を浴びます。これも風紀問題で禁止となり、後、前髪を剃り落とした男性だけの野郎歌舞伎が上演されるようになります。承応二（一六五三）年のことです。これが現在の歌舞伎の原点となったものです。

### 3―元禄歌舞伎から宝暦・天明の歌舞伎へ

江戸で市川団十郎の荒事、京都で坂田藤十郎の和事が創始され、江戸と上方の芸風の違いは明治まで続いていきます。近松門左衛門が大坂・竹本座の座付作者となつてから、上方を中心に人形浄瑠璃が栄え、一時、歌舞伎は低迷しますが、江戸中期の宝暦ごろには、歌舞伎独特の機構として回り舞台が考案され、やがて江戸歌舞伎の全盛期が到来します。

### 4―文化・文政、幕末の歌舞伎から近代・現代へ

作者の鶴屋南北と河竹黙阿弥が出た時代。南北は世間をリアルに描く生世話狂言を確立し、黙阿弥は幕末世相を反映した白浪物という泥棒の世界を多く描いています。明治に入ると、役者の地位向上が図られ、また狂言作者以外の作家による「新歌舞伎」も盛んになります。第二次世界大戦後には「新作歌舞伎」、現代は市川猿之助の「スーパー歌舞伎」も登場しています。